

応援し続けたい という思いを胸に

鳥取県生協は、6月4日、みやぎ生協の岩沼店で行なわれたボランティア交流会を訪問し、「ふれあい喫茶」で使っていただく鳥取県のお菓子やメッセージをみやぎ生協仙南ボランティアセンターの方々に渡しました。



ボランティア活動に関わっている皆さんに、贈呈しました。

鳥取県生協は、震災直後から募金、被災地への人員派遣などを行なってきました。その中で、組合員が中心となり、「とっとりふれあい便プロジェクト」を立ち上げ、みやぎ生協の仙南ボランティアセンターにお菓子を贈る取り組みを今年6月より始めています。

このプロジェクトは、3月に行な

われた「つながろう CO・OP アクション交流会」（主催：日本生協連）にて、みやぎ生協組合員理事と交流したことがきっかけで立ち上がったものです。「銘菓などは会話のきっかけになる。ちょっとした心遣いがうれしい」という話から、お菓子を贈ることに決めました。鳥取県生協は、東・中・西各エリア会で構成されており、3

エリア持ち回りで、それぞれの銘菓を贈る予定です。

6月4日には、みやぎ生協の岩沼店で開催された、ボランティア交流会の参加者に、目録、メッセージなどを渡しました。組合員活動推進グループの中田輝樹さんは、「この活動が被災された方の力に少しでもなれば」と話していました。

旭市の仮設住宅でふれあいの場づくりをしよう

東日本大震災により発生した津波で大きな被害を被った千葉県旭市。ちばコープは、今もなお仮設住宅での生活を続ける被災者の皆さんに向けたさまざまな支援活動を行なっています。ちばコープ被災者支援の取り組みについて紹介します。



「うちの中に入ると、しょんぼりしちゃって。こういう機会は貴重」と話す参加者。

旭市は、東日本大震災で発生した津波により、死者13人、行方不明者2人、全壊336世帯、大規模半壊432世帯という大きな被害に見舞われました。現在も、多くの方が仮設住宅で生活をおくっています。

ちばコープは、震災発生直後から、東北の生協・被災地を支援する一方で、県内の被災地についても支援活動を行

なってきました。お見舞金や飲料水のお届け、旭市特産の花を使用したフラワー・アレンジメント教室など多くの方に喜ばれました。

昨年8月には、千葉県から生活支援アドバイザーも派遣されました。孤独死を防ぐための「ふれあいの場づくり」に重点を置くことが決まり、職員ボランティアによる「炊き出し」、お

茶会「スマイルカフェ」などに力を入れてきました。

「スマイルカフェ」参加者の一人は、「うちにいたら、もう、しょんぼりしているだけだから、本当にありがたくて」と感想を述べていました。現在は、組合員グループや地域団体の支援企画も入り、活動の輪がさらに広がっています。